

米長期金利の上昇は成長株に逆風か？

シニア・ストラテジスト 石黒英之



ポイント① 米長期金利上昇は成長株に逆風？

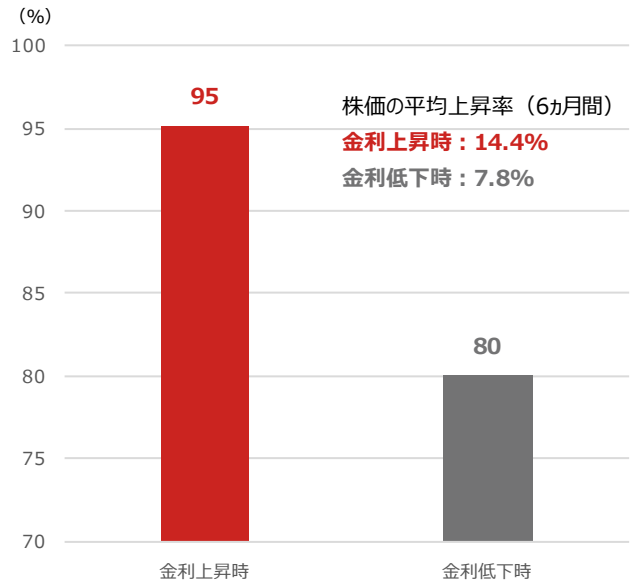
米長期金利に再び上昇圧力が強まっています。FRB（米連邦準備制度理事会）が金融政策の正常化を探り始めたことや、物価上昇の長期化懸念が高まっていることなどが背景にあるとみられます。

一般的に米長期金利が上昇すると成長株が下落するというイメージが強いですが、本当でしょうか。2009年以降の米長期金利と、成長株で構成されるNASDAQ100の6か月間の動きをみると、実は長期金利上昇局面時のNASDAQ100の上昇確率は95%と、低下局面時を上回っています。また6か月間の平均上昇率をみても金利上昇時の方が株価の平均上昇率は高いです（右上図）。短期的には長期金利上昇により成長株の投資妙味が相対的に薄れることは事実ですが、中期視点では6か月の間に行なわれる2回の四半期決算で利益の上振れが確認されることが多く、結果的に金利上昇のマイナスの影響を好業績で吸収しているといえます。

ポイント② 不確実性に強い成長株

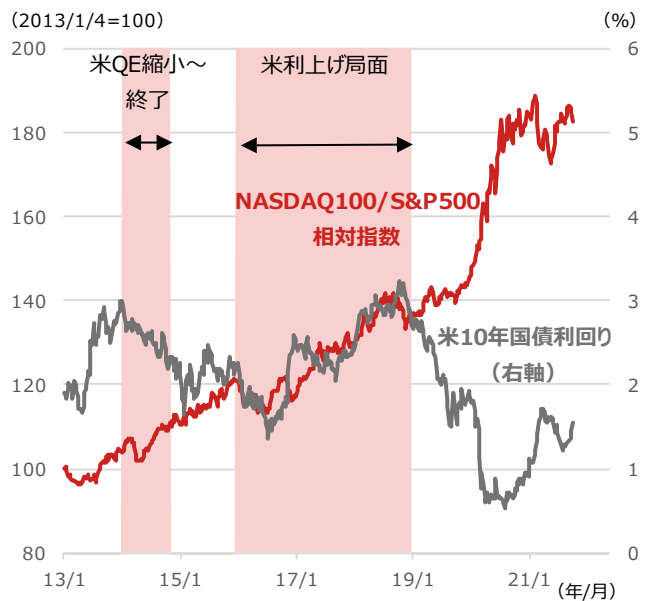
今後FRBは金融政策の正常化を進める方針ですが、成長株優位の展開は続くと想定されます。前回の金融正常化局面では、利上げ本格化後に米長期金利は上昇しましたが、NASDAQ100はS&P500を大幅に上回るパフォーマンスをみせました（右下図）。日本株についても、コロナショック以降、米長期金利が上昇しても、半導体や脱炭素、電子部品、医療機器といった成長株の上昇が目立っています。世界的な金融引き締めやコロナという不確実性が高い局面では、確固たる成長株に投資マネーが向かいやすいとみており、日米株ともに長期視点でそうした分野に注目が集まりそうです。

米長期金利上昇・低下時のNASDAQ100上昇確率



期間：2009年1月2日～2021年9月28日、週次
 ・2009年1月2日から2021年4月2日における米10年国債利回りとNASDAQ100のその後6か月間変化を集計
 ・米10年国債利回りはBloombergジェネリック米10年国債利回り
 ・金利上昇（低下）時は6か月間の変化幅を計測
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

NASDAQ100/S&P500相対指数と米10年国債利回り



期間：2013年1月4日～2021年9月28日、週次
 ・米10年国債利回りはBloombergジェネリック米10年国債利回り
 ・相対指数上昇はNASDAQ100優位、低下はS&P500優位を示す
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。